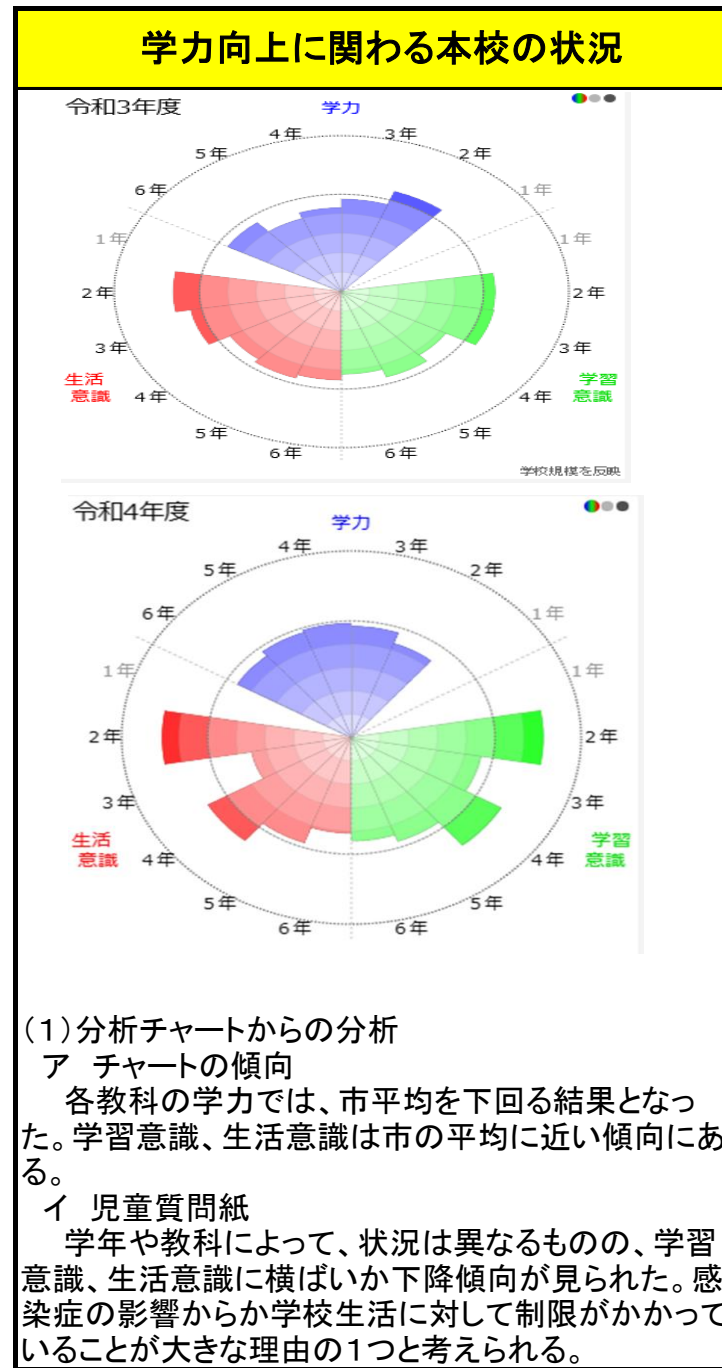


中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標	
かがやく えがお さいごまで やりぬく かつらっこ ○自ら主体的に取り組み、自分の考えを深められる子どもを育てます。(知) ○自分と友達を大切に、あたたかい子どもを育てます。(徳) ○命と体を大切に元気な子を育てます。(体) ○地域の人や自然を大切に、共に生きる子どもを育てます。(公) ○様々な人々との交流を通して、よりよく生きる子どもを育てます。(関)	
教育課程全体で育成を目指す資質・能力	
問題発見・解決能力 コミュニケーション能力	具体化した資質・能力 相手の思いを受け止めて聞く力 語彙の豊かさ 問題を解決しようとする力 他者に明確に想いや考えを伝える力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力 意図的・計画的に活動していく力 話し手の思いや意図を受け止めて聞き、考える力 自己肯定感
中期取組目標	
学校教育目標の実現に努め、魅力のある、信頼される学校づくりを推進します。 ・学習の楽しさが実感でき、児童の考えや表現を大切に授業づくりを推進し、学力を向上させます。 ・個に応じた支援を充実させ、安心・安全で豊かに学べる教育環境を整えます。 ・学校・家庭・地域の連携を深め、様々な人との関わりを通して社会性や温かい心を育てます。 ・職員の指導力を高め、「チーム桂台」として活力ある学校運営組織の確立を目指します。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	組織を生かした研究・研修を充実させ、教職員一人ひとりの授業力向上を図る。重点研究テーマを「じっくり考え 学び合い 自信をもって課題に取り組む子の育成」とし、算数科をの時間を中心に論理的に考えたり、筋道立てて説明したりする力を育成し、互いの考えを聞き合い、認め合う活動を目指していく。
担当	学習評価ウェブ委員会



今年度の目標	
じっくり考え 学び合い 自信をもって課題に取り組む子の育成 ～算数科の学習を通して～	
目標を実現するための具体的行動プラン	
組織づくり ① 中学年・高学年における社会科、理科、体育、図工などの教科担任制 ② 特別支援教育(学習室での学習支援等) ③ 理科支援員・司書教諭との連携した指導 ④ 読書活動の充実(読み聞かせ、学級読書の時間の設定) ⑤ ICT機器を活用した相互学習の充実	研究研修体制の充実 ① 重点研究会(R5度算数)を通じた指導方法の研究 ② メンターチームによる研修時間の設定とOJT
教師力向上へ協働する取組 ① 基礎的・基本的な知識技能の習得を目指した授業づくり ② 問題を主体的、対話的に解決する授業づくり ③ 学んだことを学習や生活で活用し、その有用性を実感できる授業づくり	学力向上アクションプランの検証・学校評価 ① 横浜市学力・学習状況調査の各学年の分析(令和5年度実施内容を踏まえて実施予定) ② 内部評価(年4回・学校関係者による評価2回以上)の実施 ③ 学校運営協議会による学校関係者評価の実施

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	一人ひとりの存在を大切に、子どもに寄り添った指導と安心安全な学校、学級づくりに努める。道徳科授業の充実を図るために「指導の在り方」の研修を行い、道徳科年間指導計画に沿った全学級の道徳科授業を年1回以上公開し、授業充実を図るとともに、地域の福祉施設との様々な交流を行う。また、児童会活動の人権福祉委員会を中心に、児童主体の活動を大切に職員研修を充実させ、人権意識を高めていく。
担当	人権福祉教育委員会

豊かな心に関わる本校の状況	
YPアセスメントより、仲間づくりや自分づくりに関しての項目が、低学年に比べ、高学年が低いという実態がある。児童の様子を見ていると、学習中の発表や自分を表現する場において自信がもてない児童が見られる。それは自己肯定感の低さからくるものと考えられる。仲間づくりについては、自分の思いをうまく伝えられなかったり、相手の思いを想像できなかったりすることで思い違いがあり、言い合いに発展する場面が見られる。昨年度から、重点研究では算数を行っており、その中で自分の考えを伝え合うことを重点的に取り入れてきた。他の学習や生活の場面でも生かせるようにしていきたい。 [低学年] ○全体的に、ルールを守り、学校生活に慣れようとする姿が見られる。 ●話を最後までじっくり聞くことや自分の気持ちをはっきり伝えること、課題は最後までやり遂げることなど、学校生活の基礎基本を身につける必要を感じる場面がある。 [中学年] ○学校の生活に慣れて、友達を意識して協力しているという気持ちが見られる。 ○いいところを見つけたり、困っている子を手伝ったり、素直である。 ●自分の考えを発表する子とそうでない子のはっきりと分かれている。 [高学年] ○積極的に活動しようとする姿が見られる。 ○教師や他からの働きかけの後に責任のある行動をする児童がいる。 ●自己肯定感の低い児童	

今年度の目標	
豊かな体験活動を通して、確かな人権感覚や自尊感情を高めるとともに、自分の課題に主体的に取り組み、友達と協力し合って学び、共に生きようとする子を育てる。	

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 ○道徳教育の要となる道徳科の指導を通して、子どもがより多面的、多角的な見方・考え方へと発展させられる授業、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ考えを深められる授業を行う。 ○道徳教育の要となる道徳科では、教科書だけでなく、子どもたちにとって魅力的で効果的な教材を精選、開発し、自己及び人間としての生き方について、多様に感じ、考えを深め、互いに学び合っていけるようにする。 ○望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築いていこうとする自主的・実践的態度が育ち、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を伸ばせるようにする。 ・学校生活をよりよくするための組織である「係活動」や「当番活動」の充実(後期も実施) ・児童会活動、クラブ活動、縦割り班活動などによる「異学年集団活動」の充実(後期も実施) ・御殿場宿泊体験学習(5年)修学旅行(6年)による「集団宿泊体験」の充実 ・近隣の「福祉施設スタッフ、及びその利用者との交流活動」の充実(後期も実施)	下半期 ○人権尊重の精神を基盤として全ての教育活動で行うことを通じて、子どもの自尊感情が育ち、自分と他者の人権を大切にしようとする意識が育つようにする。 ・児童人権福祉委員会を中心とした人権的活動の充実 ・人権週間では、パリンピアンの講話を聴くことで、様々な立場の人がいることに気づき、自分と変わらない ○子ども一人ひとりの能力に応じた適切な指導や必要な支援が行われ、豊かな心が育ち充実した生活を送られるようにします。 ・「YPアセスメント」や「横浜プログラム」「ソーシャルスキルトレーニング」「自分づくりパスポート」の活用 ・個別的教育支援計画・個別の指導計画の作成による特別支援教育の充実 ○読書活動の充実による豊かな読書体験を通して、主体的に読書に親しむ習慣を身につけ、言葉を読み、感性を磨き、表現力や創造力を高め、豊かな知性や感性を身につけるようにする。 ・朝読書や読み聞かせによる読書に親しむ機会の充実 ・「文化芸術体験」や「コスベルワークショップ」「学校寄席」などの文化芸術体験の充実

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	学校保健委員会を中心に児童の健康課題に向け、委員会活動も巻き込んだ取り組みを検討し、実施する。縄をテーマに体力を高める運動の良さを保健委員会と体育委員会が中心となり、体を動かす機会を年間を通して定期的に計画していく。個人としてもクラスとしても変容が分かるような手立てを提案していく。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況	
・休み時間は、外遊びをする児童が多く、体を動かすことが好きな児童が多い。 ・放課後、体を動かして遊んでいる児童も見られるが、室内で過ごす児童が多い。 ・地域には、バスケットボール、サッカー、野球、テニス、剣道、体操などのスポーツクラブが多くあり、運動が好きな児童が所属して活動している。 ・体力の面では、背中を丸めたり、正しい姿勢を保持できなかつたりする児童が目につく。また、生活のリズムが不安定で、高学年ほど夜型の傾向が強く、朝、自分で起きられず、朝食抜きの子どもの目立つ。	

今年度の目標	
学校保健委員会を中心に児童の健康課題に向け、委員会活動も巻き込んだ取り組みを検討し、実施する。学校医による喫煙防止教室を実施する。全校で一斉に運動をする機会を得ることは難しいと思うが、体力を高める運動の良さを保健委員会と体育委員会が中心となり、体を動かす機会を定期的に計画していく。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 ・体育科の領域、保健体育科の領域とともに、思考判断力を身に付けることを目標として、話し合いの仕方やワークシートや作戦シートを活用して、友達の考えから自分の考えを深める態度を育てる。 ・体育委員会による体力向上を目指した短縄集会・長縄集会の提供 ・学校医、養護教諭による歯磨き指導を通して、自分の生活の状況を見つめ、学んだことを実践できる力を育む。 ・家庭科では、栄養バランスのよい食事、環境を整えるなど食育や健康との関連を図る。	下半期 ・生活科や理科では、生き物や植物の観察や飼育を通して、生命の尊さを知り、豊かな心を育てる。 ・学校保健委員会による「病気になる元気な体をつくろう！」を合言葉にした取組 ・子ども一人ひとりが目標をもって取り組み、体力、健康に関する課題を解決しながら進める運動会づくり